

① ～ 42 ～ ②

42 ～世界を変えた男～

4 2

映画で学ぶ 「不公平でも自分を保つ」

対象：12歳以上（小学校高学年～中学生）

名前

年 組

1 「自分を保つ」とは？

ひどいことをされると、人は「やり返す（攻撃）」か「黙って耐える（我慢）」に傾きがち。でも「**自分を保つ**」はそのどちらとも違います。

 **やり返さない。でも、我慢でもない。**

 大事な区別

・やり返す＝相手のレベルに下がる ・ただ我慢＝自分の気持ちや誇りを殺す ・自分を保つ＝怒りは認めつつ、反応は自分で選び、実力と誇りで応える。
ジャッキーが選んだのは、3つ目の道でした。

※「自分を保つ」は「不正を我慢し続けよう」という意味ではありません。おかしいことに声を上げるのも大切です。ジャッキーの沈黙は、戦略としての強い選択でした。

2 不公平でも自分を保つ4つの心がけ

 ① 怒りを否定しない

「怒って当然」と、まず自分の気持ちを認める。

 ② 反応は自分で選ぶ

やり返すか・別の道か。選ぶ力は自分にある。

 ③ 自分の価値を手放さない

相手の言葉で「自分が何者か」を決めさせない。

 ④ 一人で抱えない

信頼できる人に話し、支えてもらう。

3 映画『42 世界を変えた男』とは

あらすじ（実話がもと）

1947年のアメリカ。肌の色によって、黒人選手はメジャーリーグでプレーできませんでした。そんな時代に、球団幹部リッキーは黒人選手ジャッキー・ロビンソンを起用します。ジャッキーは観客や相手チームからひどい侮辱を浴びせられますが、**その場で報復せず、全力でプレーし続けました。**やがてその姿は仲間やファンの心を動かし、野球と社会の歴史を変えていきます。

背番号「42」は永久欠番

彼の功績をたたえ、背番号**42**はメジャーリーグの全球団で永久欠番（もう誰もつけない番号）に。毎年4月15日は全選手が42をつける「ジャッキー・ロビンソン・デー」です。

見るときの心がまえ

映画には当時の差別的な言葉・侮辱の場面が出てきますが、それは「してよいこと」ではなく、乗り越えるべき問題として描かれています。なぜそれが問題なのかを考えながら見ましょう。

4 自分を保つワーク

映画を観て（またはあらすじから）、考えて書こう

① ジャッキーが「その場でやり返さなかった」場面で、あなたは何を感じた？

② それは「弱さ」だと思う？ 「強さ」だと思う？ その理由は？

③ 不公平だと感じたとき、あなたはどのよう反応することが多い？

④ 4つの心がけのうち、これから試したいものは？

5 ふりかえり

不公平にあったとき、いちばん守るべきなのは _____ だと分かりました。これから、理不尽なことがあったときは、 _____ を心がけたいです。



「自分が何者かは、自分で決める。」

先生・保護者へ：『42 世界を変えた男』は日本で**映倫G**ですが、実話にもとづき当時の人種差別的な言葉・侮辱の場面がくり返し描かれます（乗り越えるべき問題として）。本資料は12歳以上を想定していますが内容が重いため、学級の実態に応じて場面を選び、歴史的文脈を事前・事後に必ず補ってください。「自分を保つ」を「不正を我慢せよ」と誤解させないことも大切です。

© 2026 FilmEdu AI / この教材はAIが作成し、内容に誤りを含む場合があります。解説文はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理が必要になる場合があります。